

慶應大阪シティキャンパス(KOCC) 夕学サテライト講座 〈 2016 年度後期 〉 受信スケジュール

KOCC「夕学サテライト講座」は、東京丸の内シティキャンパス（慶應 MCC）で行う定例講演会「夕学五十講」のうちの一部講演を、インターネット回線を通じてライブ中継により、リアルタイムで受講するものです。

2016/9/7（水）11:00より申込受付開始（Web / Fax）

時 間：18:30～20:30（開場 18:00） 会 場：慶應大阪シティキャンパス（KOCC）
（10/11，11/1，12/13 は、グランフロント大阪 北館7階 C 8 階 カンファレンスルーム C05）

定 員：90 名（10/11，11/1，12/13 3 講演の定員は 50 名）

講座料：全 14 講演一括申込 18,500 円， 個別申込 1 講演@1,500 円※

※個別申込は、一度のお申込枚数 5 枚につき 500 円割引制度有。

* 下記は 2016/9/1 現在調整中の予定です。事情により講演者・日程等が変更となる場合がありますことをご了承ください。

1. 講演スケジュール（全 14 講演）		開催日・講師名・タイトル	主催：慶應学術事業会
① 10/5 夏野 剛 変えること、変わることを恐れてはいけない！	⑥ 11/11 松尾 睦 マネジャーになる・育てる ：仕事の作り方、与え方	⑪ 12/13 柳家 花緑<定員 50 名> 笑い感謝、いま大切におもうこと。 ※開催会場が異なります。	
② 10/11 井上 章一<定員 50 名> 京都ぎらいの関西論 ※開催会場が異なります。	⑦ 11/15 小川 和久 国際水準から見た日本の危機管理	⑫ 1/12 志賀 俊之 日産：変革を支えるレジリエント オーガニゼーション	
③ 10/17 平井 正修 坐禅で作る しなやかな心	⑧ 11/18 早野 透 わたしの田中角栄論	⑬ 1/17 清水 聡 新たな顧客マネジメント ～循環型マーケティングの提案～	
④ 10/27 森本 あんり オバマとトランプ：反知性主義と アメリカの宿命	⑨ 12/2 池尾 和人 異次元緩和と財政ファイナンス	⑭ 1/24 田口 佳史 人生は噛みしめるように生きる	
⑤ 11/1 廣瀬 俊朗<定員 50 名> 進化を楽しむ ※開催会場が異なります。	⑩ 12/8 向谷 実 好きなことをビジネスに変える ～音楽と鉄道がいっぱい～		

2. 講師&講演紹介

日付の右横く >内は 2016 年度後期夕学講座の講座テーマです。

■10月5日（水） <戦略と技術が時代を創る>

夏野 剛（なつの たけし） 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特別招聘教授
「変えること、変わることを恐れてはいけない！」

IT の進化はビジネス・経済・政治など社会のあらゆる面を変え、人間や社会に変化への適応を促し続けている。i モードを生み、ニコニコ動画の黒字化に貢献した IT ビジネスのエバンジェリスト夏野氏が、最新動向を伝えると同時に、変わり続けることへの意義と重要性を熱く語る。

1965 年神奈川県生まれ。早稲田大学卒業後、東京ガス入社。ペンシルバニア大学経営大学院ウォートン・スクールを卒業（MBA 取得）した後、ベンチャー企業副社長を経て、1997 年 NTT ドコモへ入社。「i モード」、「おサイフケータイ」など多くのサービスを立ち上げ、2001 年『ビジネスウィーク誌』世界の e ビジネスリーダー 25 人の 1 人に選ばれる。2008 年より現職。数多くの企業の役員や顧問などを兼任。

■10月11日（火） <ミクロとマクロの日本論> [定員:50 名]、[会場：GF0 北館7階 C 8 階 カンファレンスルーム C05]

井上 章一（いのうえ しょういち） 国際日本文化研究センター 教授
「京都ぎらいの関西論」

大ベストセラー「京都ぎらい」の著者。洛中千年の「花と毒」を見定めた衝撃の京都論の裏側には、京都に生まれ、京都に住み続けてきた井上教授独自の関西人論・関西文化論があった。東京人が持つステレオタイプのイメージを打ち破り、ユニークな関西像を描き出す。

1955 年京都生まれ。京都大学工学部建築学科卒業。京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了。1984 年出版された『霊柩車の誕生』でユニークな研究者として頭角を現し、1987 年『つくられた桂離宮神話』でサントリー学芸賞を受賞。関西を代表する文化の論客のひとり。他地域の人からは「生粋の京都人」に見える井上教授の著書『京都ぎらい』は、ベストセラーとなり『中央公論』新書大賞を受賞した。

■10月17日（月）　＜先の見えない時代の生き方＞

平井 正修（ひらい　しょうしゅう）　全生庵 第七世住職、日本大学客員教授
「坐禅で作る　しなやかな心」

現役首相をはじめ政財界人も多く参禅し心を調える全生庵の平井住職が、しなやかな心を育む座禅の力を説き、日常の中での実践方法を伝えることでストレス社会に生きる我々にエールを送る。

1967年生まれ。学習院大学法学部政治学科卒業後、静岡県三島市龍澤寺専門道場の修行を経て、2003年より全生庵の第七世住職に就任。全生庵は、徳川幕末・明治維新の際、国事に殉じた人々の菩提を弔うため、明治16年に山岡鉄舟居士によって建立された。安倍晋三首相、中曽根元首相などの政界・財界人などが多く参禅することで知られ、平井氏も坐禅会や写経会など布教に努めている。

■10月27日（木）　＜国のかたちを考える＞

森本 あんり（もりもと　あんり）　国際基督教大学 人文科学 department 教授（哲学・宗教学）、学務副学長
「オバマとトランプ：反知性主義とアメリカの宿命」

分断を語り、差別と憎悪を是認するトランプになぜ支持が集まったのか。統合の夢を語ったオバマの登場から8年でアメリカの何が変わったのか。アメリカキリスト教史が専門の森本教授が、アメリカ精神の底流をなす反知性主義の伝統から、この変化を解き明かす。

1956年神奈川県生まれ。国際基督教大学（ICU）人文科学科卒。東京神学大学大学院を経て、プリンストン神学大学院博士課程修了（組織神学）Ph.D.。国際基督教大学牧師、同大学人文科学科教授等を経て、2012年より同大学学務副学長。プリンストン神学大学院、バークレー連合神学大学院でも客員教授を務めた。主な著作に『ジョナサン・エドワーズ研究』『現代に語りかけるキリスト教』『アジア神学講義』『アメリカ・キリスト教史』『アメリカ的理念の身体』等がある。

■11月1日（火）　＜この人に聞く＞　[定員:50名]、[会場：GFO 北館7階 C 8 階　カンファレンスルーム C05]

廣瀬 俊朗（ひろせ　としあき）　元ラグビー日本代表
「進化を楽しむ」

昨年のW杯で一躍注目の的となったラグビー。その舞台裏でチーム団結を促し勝利に貢献した“影の主将”が30年近い現役に終止符を打った。引退後も選手会設立などに取り組む廣瀬氏が、W杯での躍進に至る日本ラグビーの軌跡、個人の想いと新たな挑戦への抱負を語る。

1981年大阪生まれ。5歳よりラグビーを始め、慶應義塾大学理工学部に進学後もラグビー部で活動。2004年東芝入社後に東芝ブレイブルーパスに入団。2年目からレギュラーとして活躍し、2009年のプレーオフではMVPも獲得。2007年には日本代表に初選出される。日本代表他、所属した各チームでキャプテンを務め、元日本代表ヘッドコーチのエディー・ジョーンズ氏をして「自分がラグビー界で経験した中で、ナンバーワンのキャプテンだ」と言わしめるほどキャプテンシーに優れる。トップリーグ各チームのキャプテンを集めたキャプテン会議の設立や、ラグビー日本代表の選手を中心とした選手会の発足に尽力。

■11月11日（金）　＜人の力を信じる経営＞

松尾 睦（まつお　まこと）　北海道大学大学院経済学研究科 教授
「マネジャーになる・育てる：仕事の作り方、与え方」

挑戦的な仕事を任せれば管理職として成長できると考えるのは安直だ。経験学習研究の第一人者松尾教授が、人材開発の最大テーマ「マネジャー育成」を取り上げ、丁寧な調査研究に裏付けられた知見と豊富な事例を交えて語る講演は、経営幹部、企業の教育担当者必見。

1964年東京生まれ。小樽商科大学商学部を卒業後、製菓会社での営業勤務を経て、北海道大学大学院文学研究科で認知心理学を学ぶ。修士課程（行動科学専攻・社会心理学講座）修了後、民間シンクタンクを経て、岡山商科大学商学部産業経営学科助手に着任。研究生活の中、東京工業大学大学院 社会理工学研究科 人間行動システム専攻に通い、博士号を取得する。その後の研究で英国ランカスター大学経営大学院のPh.Dも取得。企業人として働いたときの出会いや経験が、研究にも反映されていると話される松尾教授。独自の視点による研究内容は国内外で高い評価を得ている。

■11月15日（火） <国のかたちを考える>

小川 和久（おがわ かずひさ） 静岡県立大学特任教授、NP0 法人 国際変動研究所理事長、軍事アナリスト
「国際水準から見た日本の危機管理」

北朝鮮のミサイル発射、中国の覇権主義的海洋進出、IS テロやサイバー攻撃、度重なる自然災害等々。日本を取り巻く内外環境は緊張感に満ちている。安全保障と危機管理の専門家でメディアでも活躍する小川教授が、国際水準に照らしながらわが国の課題と対処法を説く。

1945 年熊本県生まれ。陸上自衛隊生徒教育隊・航空学校修了後、地方新聞記者、週刊誌記者などを経て、日本初の軍事アナリストとして独立する。外交・安全保障・危機管理（防災、テロ対策、重要インフラ防護など）の分野で政府の政策立案に関わり、国家安全保障に関する官邸機能強化会議議員、日本紛争予防センター理事、総務省消防庁消防審議会委員、内閣官房危機管理研究会主査などを歴任。小渕内閣ではドクター・ヘリ実現のために中心的役割を果たした。

■11月18日（金） <国のかたちを考える>

早野 透（はやの とおる） 元朝日新聞コラムニスト、桜美林大学名誉教授
「わたしの田中角栄論」

没後 20 年以上を経て、突如として沸き起こった田中角栄ブームは何を意味するのか。かつて番記者として田中角栄氏に密着し、地元取材のため新潟勤務もこなした早野教授が、希代の政治家・田中角栄の実像を語り、巷の角栄論から垣間見える日本の政治意識、リーダー待望論を分析する。

1945 年神奈川県生まれ。東京大学法学部を卒業後、朝日新聞社に入社。政治記者として、田中角栄の番記者などを皮切りに歴代政権を取材した。担当した主な記事は、自民党幹事長として湾岸戦争での日本の対応に取り組んでいた小沢一郎の政治手腕に迫った「論考小沢一郎」や、細川政権の成立から崩壊までを検証した「連立回り舞台」等。

■12月2日（金） <国のかたちを考える>

池尾 和人（いけお かずひと） 慶應義塾大学経済学部 教授
「異次元緩和と財政ファイナンス」

異次元の領域に踏み込んだ政府と日銀の量的・質的金融緩和政策。究極の禁じ手と言われるヘリコプターマネーへの突入を危惧する声も多い。深刻な経済混乱を引き起こしかねないと、かねてから新聞等で警鐘を鳴らしてきた金融論の第一人者である池尾教授が問題点を斬る。

1953 年京都生まれ。京都大学経済学部卒業、一橋大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学。岡山大学経済学部助手・助教授、京都大学経済学部助教授、慶應義塾大学経済学部助教授を経て、現職。ミクロ経済学の視点から、金融論を分析する。日本債券信用銀行取締役、日本郵政公社理事なども歴任。

■12月8日（木） <先の見えない時代の生き方>

向谷 実（むかいや みのる） 音楽プロデューサー、株式会社音楽館 代表取締役
「好きなことをビジネスに変える～音楽と鉄道がいっぱい～」

軽い気持ちで加入したバンドはプロデビュー後、日本屈指のスーパーバンドに成長し、音楽で培ったスキルと好きな鉄道を融合させたシミュレーションゲームは予測を覆す大ヒットになった。好きなことから仕事を生み続ける向谷氏に、先の見えない時代を生きるヒントを得たい。

1956 年東京都生まれ。ジャズフュージョン・バンドの草分けとも言える「カシオペア」のキーボーディストとしてメジャーデビューし、40 枚を超えるアルバムをリリース。近年はインターネットによる動画配信を導入し、普段公開されることの少ない音楽制作現場からの中継は各方面から注目を浴びている。また同氏は幼少時から熱狂的な鉄道ファンでもあり、世界初の実写版鉄道シミュレーションゲーム「Train Simulator」を開発。その技術が評価され、現在は運転士訓練用などの業務用シミュレータの開発と制作を行っている。

■12月13日（火） <この人に聞く> [定員:50 名]、[会場:GF0 北館7階-C 8 階 カンファレンスルーム C05]

柳家 花緑（やなぎや かるく） 落語家
「笑いと感謝、いま大切におもうこと。」

戦後最年少の 22 歳で真打昇進。スピード感あふれる歯切れのいい語り口が人気で、新作のほか、洋装と椅子で行う“同時代落語”にも意欲的に取り組む。35 年近く芸を磨いてきた柳家花緑師匠が、いま感じる大切なものは“笑いと感謝”である。講演後は落語の一席を披露する。

1971 年 東京生まれ。中学卒業後、祖父・五代目柳家小さんに入門。戦後最年少の 22 歳で真打昇進を果たす。落語界の活性化を目的として結成された「六人の会」（春風亭小朝、笑福亭鶴瓶、林家正蔵、春風亭昇太、立川志の輔）のメンバーとして落語の振興に努めている。落語の新しい未来を切り拓く旗手として注目の存在。

■1月12日（木）　＜戦略と技術が時代を創る＞

志賀 俊之（しが としゆき）　日産自動車株式会社 取締役副会長

「日産：変革を支えるレジリエントオーガニゼーション」

事業環境の変化がより複雑かつスピードを増し、短期予測さえも困難になっている今、組織もまた状況と業績に合わせての変革が必要だ。ゴーン CEO の下でリバイバルプランの立案・実行に尽力した志賀副会長が変革を支えるリーダーシップと柔軟性のある組織づくりを語る。

和歌山県出身。1976 年大阪府立大学経済学部卒業後、日産自動車に入社。同社がルノーと提携した際、COO となったカルロス・ゴーンの下、アライアンス推進室長を務め、現場とのパイプ役として、日産リバイバルプランの立案・実行に貢献。2005 年代表取締役、最高執行責任者に就任。2013 年 11 月に代表取締役、副会長。2015 年 6 月、産業革新機構会長就任。

■1月17日（火）　＜人の力を信じる経営＞

清水 聡（しみず あきら）　慶應義塾大学商学部 教授

「新たな顧客マネジメント～循環型マーケティングの提案～」

情報感度が高い人が潜在顧客にも情報を回す「循環型マーケティング」とは？

SNS の登場とスマホの普及で口コミが消費者の意思決定に大きく影響する時代の、新たな購買意思決定プロセスは、日本独自の視点から導かれた。清水教授が次なる顧客マネジメントについて解説する。

1963 年生まれ。慶應義塾大学大学院博士課程修了。博士（商学）。明治学院大学経済学部専任講師、助教授、同大学経済学部教授を経て、2009 年より現職。専門領域は、消費者行動論、マーケティング戦略。『「コミュニケーション型生活者」を探せ！』など著書多数。

■1月24日（火）　＜先の見えない時代の生き方＞

田口 佳史（たぐち よしふみ）　東洋思想研究家、株式会社イメージプラン 代表取締役社長

「人生は噛みしめるように生きる」

在野の東洋思想研究家として「西洋と東洋の知の融合」を説き続ける田口氏。今回の夕学講座では、人の交わり、自然と閑居の楽しみを説き、処世訓の最高傑作と評される中国古典「菜根譚」を題材に、堅い菜根を噛みしめるように苦しみながら生きることの意味と重要性を語る。

（株）イメージプラン創業以来、2000 社にわたる企業変革指導を行う一方で、中国古典思想の研究も進められた田口氏。永年にわたり研鑽された中国古典を基盤としたリーダー指導で、多くの経営者と政治家を育てる。東洋倫理学、東洋リーダーシップ論の第一人者。2014 年には、我が国の歴史・伝統・文化を踏まえた 21 世紀のグローバルな人材育成を目指す「人格教養教育推進委員会」を発足させた。